

良寛さんも孤独と戦った

- 2009.03.08 Sunday
- 01:10



最近、読書ばかりしている夜長です。

一番心に残った本は↑。

タイトルがごっついのでギョッとしないで下さい。(笑)

簡単に言えば、「生まれるときも死ぬときも一人、孤独と向かい合うことで、新しい自分と出会え、人生の新たな道を発見できる。」という内容。

この本の中に良寛さんのことが少しのっているのです。

寂聴さんいわく、良寛さんは手まりをつき子供たちとたわむれるのどかな雰囲気イメージだけど、晩年は大腸がんで苦しみ、庵で一人で痛みと戦ったわけである意味「孤独との戦いでもあった」そうで、苦しい胸のうちはあらかず歌もいくつかあるそう。

そんな中、彼を癒してくれたのが貞心尼。痛みに震え寒気に震える彼の寝床に入り、体をあたためてあげるくんだりも印象的です。

良寛さんの違った面（人間臭さ）が垣間見えてまた別な角度で歌に向き合えるかもしれないな・・・と読み終えて思いました。

蛇足ですが・・・

良寛様と貞心尼はプラトニックだった！と寂聴さんは書いています。
↑みんなが一番知りたいかも？と思い、付け加えてごめんね(笑)